

研究課題名	十二指腸原発 MALT リンパ腫の臨床病理学的特徴、治療に対する反応性と予後について検討する
研究責任者名	広島大学病院 内視鏡診療科 教授 田中 信治
研究期間	2022年2月17日(倫理委員会承認後)～2023年12月31日
対象者	1996年4月から2021年3月の間に、広島大学病院内視鏡診療科を受診された十二指腸 MALT リンパ腫と診断された患者さん。
意義・目的	十二指腸 MALT リンパ腫は頻度の低い疾患であり、その病態や治療成績などに関しては分かっていないことが多いです。十二指腸原発 MALT リンパ腫の発見と正しい診断を得ることに寄与すると共に、標準的治療方針の設定の可能性についても検討することを目的としました。
方法	<p>本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は年齢、性別、確定診断日、病理組織診断とその所見、内視鏡検査における肉眼型(胃病変がある場合にはその肉眼型も)、深達度(EUS)、病変占拠部位[胃病変(U, M, A)、十二指腸(球部、2nd、3rd)、空腸、回腸、結腸、直腸]、BIRC3/MALT1 遺伝子転座の有無、臨床病期(Lugano 国際会議分類)、血液検査データ(serum Gastrin, LDH, Hgb, sIL-2R, $\beta 2$ microglobulin, あればPGI/II)、H. pylori 感染の有無、Hp 除菌治療実施日とその効果(CR, pMRD, rRD, NC)、CR/pMRD となった場合には、それが確認された日と除菌治療終了からの期間(days)、H. pylori 除菌治療の効果が rRD/NC の場合その後の治療の内容(RTx, ChemoTx, “watch & wait”, etc.)、予後(DOD, DOC, AWD, CR)、生存最終確認日(最終受診確認日)と確定診断後の生存期間、十二指腸球部の gastric metaplasia や ectopic gastric mucosa の有無、他の疾患に罹患している場合にはその病名、自己免疫疾患の有無(example: RA, シェーグレン症候群, 橋本病, etc.)、粘膜萎縮の程度、診断に至る契機です。</p> <p>個人を特定可能な情報は解析には用いません。本院にて氏名・住所等の個人情報を削除し、誰のものか分からないよう匿名化した上で、代表機関であるたかの橋中央病院に提供します。匿名化されたデータは、たかの橋中央病院にてとりまとめられた上で、代表機関で解析します。</p>
研究実施体制	<p>研究代表機関 たかの橋中央病院 田利晶</p> <p>共同研究機関 広島赤十字・原爆病院 岡信秀治</p>
試料・情報の管理責任者	たかの橋中央病院 田利晶
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心

ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5191

広島大学病院 内視鏡診療科 助教 瀧川英彦

研究機関：広島大学